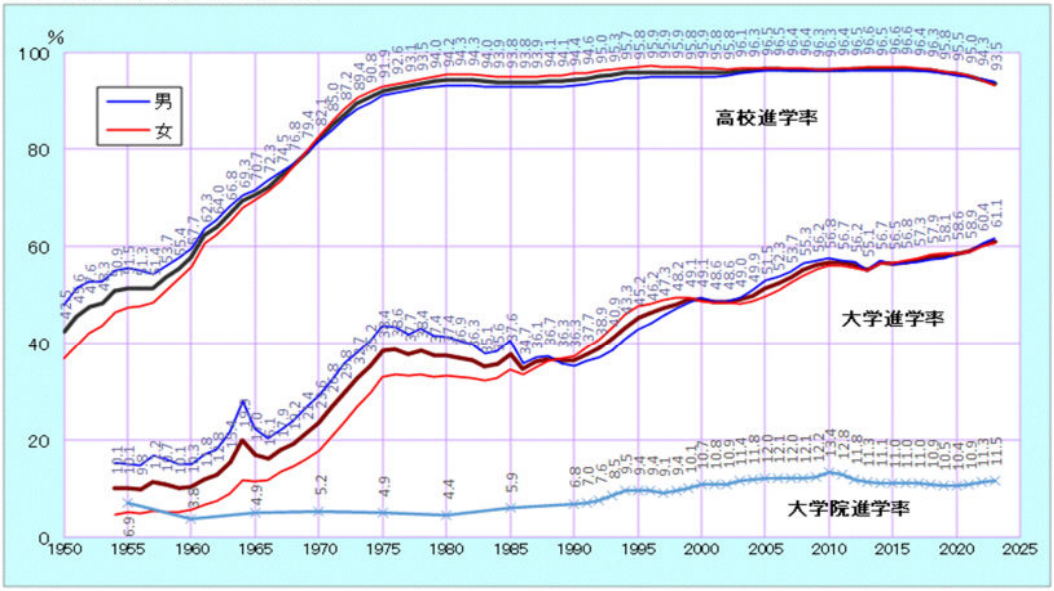
「不登校」を考える ④　　臨床心理士　福田　求

5 不登校の社会的背景　　（“ のの はな ” 教育相談）

（5） 進学率の上昇

1970 年代に入り、我が国が石油危機を契機に慢性不況に陥った頃、高校生の不登校が増加してきます。就職難などの将来に対する不安が広がったことの影響も考えられますが、団塊の世代の受験以来、進学率が急上昇してきて、学校へ行くメリットが減じられていることも無視できません。

高校・大学・大学院進学率の推移



（注）高校進学率は、中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者のうち、高等学校等の本科・別科，高等専門学校に進学した者（就職進学した者を含み，浪人は含まない。）の占める比率。大学進学率は、大学学部・短期大学本科入学者数（過年度高卒者等を含む）を3年前の中学校卒業者数及び中等教育学校前期課程修了者数で除した比率。数字は男女計の値。大学院進学率は大学学部卒業生のうち大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科に入学した者の比率。
（資料）e-Stat 学校基本調査・年次統計、文部科学省「文部科学統計要覧」

高度経済成長期には、「良い」学校⇒「良い」会社⇒「良い」生活という人生行路がある程度、現実味をもって目標とされていました。しかし、1975 年には高校進学率が 90%を超え（2021 年は 98.8%）、大学進学率も約 40%（2022 年は 60%）を超えて、いわゆる高学歴社会となると、事情が変ってきます。

高校や大学は進学して当たり前、進学できなければ「落ちこぼれ」の烙印を押されることになります。もはや高校や大学進学は夢や希望ではなく半ば義務化された大きなストレッサーとなって受験生の前に立ちはだかることとなりました。

当然、就職のためのワンステップと化した学校が、学問への能動的な意欲や知への渇望を満たす場とはなりえず、高成長の過程で芽生えてきた「中流意識」や「マイホーム主義」などが、「いくら勉強を頑張っても所詮、会社の課長止まり」というような後ろ向きの諦観を拡散させたことも、登校意欲に水を差すことになりました。

また高等学校では不登校となっても、通信・定時制高校への転学や「大検（現在の高認試験）」を受けるなどの代替ルートも選択可能であることから、学校に行けなくても何とかなる事例も増えてくると、何が何でも学校へ行かなければならないといった社会通念は薄らいできており、進学率の上昇が却って学校自体の価値を切り下げ、不登校を生み出す一因となってきているとも考えられるのです。

枕流漱石「歌は世につれ、世は歌につれ」⑤

70年安保闘争での敗北や、`72年の浅間山荘事件で終焉したとされる学生運動への弾圧が、「ノンポリ」や「事なかれ主義」の蔓延に拍車をかけました。

「あなたはもう忘れたかしら　赤い手ぬぐいマフラーにして…　若かったあの頃　何も怖くなかった　ただあなたの優しさが　怖かった」「神田川」（詞：喜多条忠，曲：南こうせつ，1972年）には、権力に抗い学生運動に身を投じていた青年が、同棲している「あなた」の優しさに、権力と闘おうとする意志が削がれていく怖さが歌われています。「…　テレビでは我が国の　将来の問題を　誰かが深刻な顔をして　しゃべってる　だけども問題は今日の雨　傘がない　行かなくちゃ　君に逢いに行かなくちゃ」と歌った井上陽水が作詞・作曲した「傘がない」も論議を呼びました。

一方、以前の政治的な色彩を消して、「僕の髪が肩までのびて　君と同じになったら　約束どおり町の教会で結婚しようよ」と歌った吉田拓郎の「結婚しようよ」（作詞作曲：吉田郎）が大ヒットしました。従来のジェンダーや家制度へのしがらみから決別する清新さはありました。しかし、古いものへと**右傾化**していく「**暗い**」政治には関心がなく、結婚やマイホームといった少し頑張れば手が届きそうな「**明るい**」**夢**に飛びつこうとする若者や、ニューファミリー層を中心に支持されました。

「もしも私が家を建てたなら　小さな家を　建てたでしょう…　子犬の横にはあなた　あなたがいて欲しい　それが私の夢だったのよ」と歌った「あなた」（詞・曲：小坂明子）などがヒットしたことから、この頃から「マイホーム主義」や「私事性」が蔓延し、**政治的無関心**が民主主義の根幹を蝕みつつあることが推測されます。

因みに、1972年には「どうにもとまらない」や「あっしにはかかわりのねぇことでござんす」が流行語となっています。自分には関わり合いのないことには手を出さないようにしていても、結局は弱者を助けてしまう**道徳心**は、まだ失われてはいなかったのです。

6 青年期の心理的特徴

今まで述べてきた社会的背景（家庭、学校、教師、教育政策、政治・経済など）と同様に、**誰もが不登校になりうる**要因の一つでもある**青年期の心理的特性**についても述べておきます。

⑴ 青年期**の長期化**

未開社会では、子どもは割礼などの通過儀礼を経ることで、即、大人と認められるので、青年期は存在しないと考えられます。しかし、文明が発達し社会が高度化・複雑化してきた現代社会においては、大人として身につけておく知識や技術が膨大なものとなっています。それらを修得する間は大人としての責任を果たすことを**猶予（モラトリアム）**される長い青年期（第二次性徴が始まる 10 歳頃から就職し自立していく 20 歳過ぎ《結婚する 30 歳過ぎとする見解などもある》まで）が必要とされているのです。

このことは、青年が子どもでも大人でもない中途半端な**境界人（マージナルマン）**として、社会的・精神的に不安定な立場に長期間置かれ、**自己同一性**〔**アイデンティティ，**参照（3)〕の確立に苦しむことを意味しています。

[第二の誕生]

われわれは、いわば**二度生まれる**。一度は**人類**の一因として、二度目は**性**を持った人間として、･･･気分の変化激情の頻発、絶えざる精神の動揺が子どもをほとんど手に負えないものとする･･･

＜https://es.pngtree.com/freebackground/close-up-picture-of-a-lion-roaring_＞

かつては自分をなだめていた声に、彼はもう耳をかさない。彼は**熱病にかかったライオン**になってしまう。自分の指導者を認めようとせず、もはや指導されることを欲しない。･･･これこそ、わたしのさっき言った**第二の誕生**である。いまこそ人間が**真に人生に対して生まれる**ときなのである。

＜J.J.ルソー「エミール」＞

⑵ 精神的脆弱性

1) 目覚め

子どもは、**第二次性徴**が始まると、**自我**に目覚め、恋人や親友などを意識するようになります。自意識過剰に陥ったり、周囲からどのように自分が評価されているのかが気になり、感情の**アンビバレンス（両面感情）**に悩まされたりします。

また「**社会**」や「**価値**」への関心も高まるので、学習成績や進路、政治・経済・文化、あるいは自分の**生き方**などにも**不安**や**悩み**を抱くようになり、**現実と理想**、

優越感と劣等感などの間を**自我**が揺れ動き、ささいなことにも**過敏**に反応し、**情動が不安定**になってきます。

2）心理的離乳（第二の誕生） 参照前頁コラム

一方、自分を育ててくれた**親**への**依存から脱却**し、親からの分離・自立を目指そうとすることによる**不安**や**葛藤**に襲われるとともに、自分を押さえつけようとする親や教師、あるいは社会に対して反発し、「**熱病に罹ったライオン**」（参照前頁コラム）のように感情を爆発させることも少なくありません（**第二反抗期**）。

枕流漱石 「歌は世につれ、世は歌につれ」⑥

1980年代になると、ドル高・円安を背景とした輸出の増大から大消費ブームがおこり、経済の実体を伴わない株価や地価の急騰が空前の「バブル」を現出します。若者はインベーダーゲームやファミコン、ディスコに熱狂し、修学旅行の大半は「ヒロシマ」から東京ディズニーランドへと変わり、教育的価値を下げました。「不倫」を扱った「金妻」がトレンディードラマの旗手となり、子どもを作らず夫婦二人で自由に暮らすDINKSの在り方も論議の的になりました。

地道に生きることが疎かにされる風潮が広がるなかで、**校内暴力**や**中学校の不登校**が急増します。また**いじめ**が横行し、**小学校**での**不登校**も増加してきます。

「…　行儀よくまじめなんて クソくらえと思った　夜の校舎 窓ガラス壊してまわった　逆らい続け あがき続けた 早く自由になりたかった…　信じられぬ大人との争いの中で　…いったい何 解りあえただろう　…　ひとつだけ 解ってたこと　この支配からの 卒業…　」（「卒業」作詞・作曲：尾崎豊 1985年）。青年は、大人の命じるままに動くロボットのような自分から卒業したいと思ったのです。しかしその先が見えてこないもどかしさ、腹立たしさに「**熱病に罹ったライオン**」のように感情を爆発させるのです。

「生きていくのがつらい日は　お前と酒があればいい…　おまえにゃきっと幸せが　…辛い涙にくじけずに　春の来る日を　お前と二人酒」（「二人酒」作詞：たかたかし，作曲：弦哲也，1980年）。あてのない明日の幸せを夢見て、夫婦で酒を汲み交わす、このいじらしい幸せさえも手にすることのできない大人は、何を求めて生きていけばよいのでしょうか。大人も辛いのです。

「くもりガラスを 手で拭いて　あなた明日が 見えますか　愛しても 愛しても あゝ他人の妻･･･　咲いてさびしい さざんかの宿」（「さざんかの宿」作詞：吉岡治　作曲：市川昭介　1982年）。何が真実なのか、何が善なのかと考える余裕もなく、目先の欲に振り回されるばかりで明日が見えません。「右傾化」・「新自由主義」などの激流に押し流され、溺れていることにも気づかないまま、「〇〇（じんけん）」という**人間らしく生きる**うえで**最も大切**なものさえ失っているのです。

(3) 自己同一性 (同一性, アイデンティティ)

1) 自己同一性とは？

自分は何者か、自分の目指す道は何か、自分の存在意義は何かなど、「**自己**を**社会のなかに位置づける**問いかけに対して、**肯定的**かつ**確信的に回答**できる」ことが**自己同一性**を確立する重要な要素です。＜心理学辞典,1999＞

【E.H.エリクソンの**発達課題**より】

発達段階	**発達課題**	危　機	徳
① **乳児期**	**信頼性**	不信	**希望**
② 幼児前期	自律性	恥	意思
③ 幼児後期	積極性	罪悪感	決意
④ **児童期**	**勤勉性**	劣等感	**有能感**
⑤ **青年期**	**自己同一性**	**同一性拡散**	忠誠
⑥ 成年期	親密性	孤独	愛
⑦ 壮年期	生殖性	停滞性	世話
⑧ 老年期	統合性	絶望	英知

その同一性が得られなくて、自分が何者なのか、**何**を**したい**のかが**わからなくなり**、対人関係を悪化させたり非行に走ったり、遅刻を繰り返したり決断を回避したり、無関心や無感動になったりする状態を**同一性拡散**と言います。

2) 自己同一性の確立と不登校

参照左表

不登校も、同一性拡散の一事例と考えられるので、その**解決**には、単に「学校に行くこと」を目指すのではなく、**自己同一性**（**社会**のなかに**肯定的**かつ**継続的**に位置付けられた**真の自分が**確立されている状態）の獲得を目指すことが肝要です。

しかしそのためには、**青年期**までに獲得できていない**発達課題**を**獲得**していく（学び直していく）必要があるのです。一例をあげると、**不登校**を解決するためには、**児童期**に獲得すべき発達課題である**勤勉性**を獲得しておくことが必要です。なぜなら、学校などの社会的活動に**積極的**に**参加**できず、良好な**人間関係**を築くことができなければ、**客観的**な**有能感**や、みんなと**協同**することで培われる**勤勉性**が身についていないので、**社会**のなかに**肯定的**かつ**継続的**に位置付けられた**真の自分（自己同一性）**を獲得することが難しいからです。

一方、生きる**希望**を失っているような深刻な場合は、乳児期の発達課題である**信頼性**を獲得することからの**学び直し**が急務となるのです。

「不登校」を考える⑤へ続く